

第14回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

平成28年6月10日（金） 10:00～12:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、片岡部会長代理、青木委員、折木委員、久保委員、名和委員、山川委員

(2) 事務局

小宮宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯宇宙開発戦略推進事務局審議官、高見宇宙開発戦略推進事務局参事官、末富宇宙開発戦略推進事務局参事官、松井宇宙開発戦略推進事務局参事官、守山宇宙開発戦略推進事務局参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙システム全体の抗たん性強化の今後の進め方について

宇宙基本計画の工程表に示されている、宇宙システム全体の抗たん性強化に係る検討について、資料1に基づき、事務局より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の意見・質問があった。（以下、○意見・質問、●事務局等の回答等）

○脆弱性の評価について、システムの脆弱性だけにとらわれると、本当の意味での抗たん性は強化できないのではないかと。昨今の事例として、システムに脆弱性がほとんどないといわれているにもかかわらず、事故が起きているケースがある。

○衛星の故障の多くが、ヒューマン・エラーに起因するものであり、いかにシステムを作りこんでも、ヒューマン・エラーはなくなる。リスク分析においてもオペレーションからの観点も必要であると考えます。

○抗たん性を考える概念として、どこまでの範囲を考えるのか。宇宙システム全体を含めた抗たん性なのか、あるいは発射システムや、リモセンといったシステム個々の抗たん性を考えるのか。

●例えば準天頂衛星を使った自動走行の抗たん性を考えてみる等、ある何かの利用を考えた上での抗たん性をまず考えるべきであり、通信や測位といった機能をいかに維持するかといった観点での抗たん性を検討していくべきと考えます。

○抗たん性の議論を各省で深めていくのも大事だが、政策にどう反映するかが重要である。コンセプトを策定してそれに基づきやっていくだけではなく、気が付いたところで逐次政策に反映していくやり方もあるのではないかと。

○また、米国では、昨年9月に抗たん性の区分等が改めて整理されたようだが、それを踏まえた新たな米国での抗たん性強化の動き等、新たに見えてきたものはあるのか。

●米国では、それぞれの宇宙システムごとに、抗たん性は考慮されているようだが、unclassified の情報として見えてきているようなものは事務局としては確認できていな

い。

○抗たん性の検討をするにあたって、まずは個別具体的なシステムを使ってケーススタディをやってみるのがいいのではないか。準天頂衛星や、ひまわりが使えなくなるケース等、色々やり方はあると思う。

(2) 中間取りまとめに盛り込むべき事項について

安全保障分野での中間取りまとめに盛り込むべき事項について、事務局より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の質問があった。(以下、○質問、●事務局等の回答)

○海洋状況把握に関して、昨年秋にMDAのコンセプトが策定され、今後具体的なアクションをとっていかないといけないと考える。一例としてAIS (Automatic Identification System) 情報は衛星情報と絡めて精度を上げていかないと考える。

●昨年末に、衛星情報の試験的利活用を工程表に乗せたときは、画像情報をイメージしていた。AISと衛星情報を組み合わせることに関しての検討も今後必要であると考え。

以 上